

# 令和三年度 東京都立立川ろう学校 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 協議会名称 令和三年度 東京都立立川ろう学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(中学部主任)：事務局長、主幹教諭(高等部主任) 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長(高等部担当)、副校長(幼小中担当)、経営企画室課長、主幹教諭(教務主任)、  
主幹教諭(小学部主任)、主幹教諭(中学部主任)、主幹教諭(高等部主任)、  
主幹教諭(乳幼児相談)、指導教諭(幼稚部主任)、指導教諭(小学部) 計11名
- (4) 協議委員の構成  
学識経験者(大学教授2名)、学識経験者(医療関係者)、学識経験者(元校長)、PTA会  
長、障害者団体理事長、進路先/地域福祉関係者(2名) 計8名

## 2 令和三年度学校運営連絡協議会の概要〔各回にて意見票を集約〕

- (1) 学校運営連絡協議会(第1回と第2回は紙面開催、第3回はオンライン開催)
- ① (第1回) 令和3年7月15日(金) 内部委員11名、協議委員7名  
学校経営計画、自主的学習態度の育成、高等部進路状況報告、乳幼児の保護者支援の充実、働き方  
改革の取り組み、開設準備室より
- ② (第2回) 令和3年11月18日(木) 内部委員11名、協議委員7名  
第1回意見報告、学校評価アンケート(Forms実施)、開設準備室より
- ③ (第3回) 令和4年2月8日(火) 内部委員11名、協議委員5名(別に意見票参加3名)  
学校評価アンケート結果と分析報告、第2回意見報告  
※ 評価委員会(上記協議会に含む)

## 3 主な協議項目(学校運営向上・改善に向けての取り組み事項)

- (1) 自主的学習態度の育成  
・学習記録や日課帳の活用  
・進路ノートの活用  
・学習努力生徒表彰など
- (2) 乳幼児の保護者支援  
・地域におけるセンター的機能の発揮  
・病院や保健所、保育所や幼稚園との連携
- (3) 立川学園に向けて  
・伝統の継承と知的部門との連携による発展  
・地域貢献の継続
- (4) 学校評価アンケート実施方法および分析結果による課題等  
・Forms実施での回収等の課題、進路や職業教育、家庭学習の確立、学部間連携など

## 4 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査(11月実施)の対象・規模〔回収率〕  
・小学部児童(5,6年生)18人、中学部生徒25人、高等部生徒48人〔92%〕  
・保護者 172人〔87%〕  
・教職員 92人〔88%〕 [全体回収率89%]

### (3) 主な評価項目

学校生活全般、学習指導、生活指導、進路指導、教育活動全般、健康・安全、学校運営、  
教員研修、働き方改革など

### (4) 評価結果の概要及び分析・考察

#### ① 「家庭学習の確立」について

保護者全体としては76%。今年度は中学部の評価が7%低下した。この傾向は中学部生徒自身および中学部教員の評価においても同様の傾向が見られた。

「我が子は宿題などの課題をきちんとやっていない」「自分から勉強してほしいのに意識が低くやらない」「学校からの課題が少ないため勉強していない」などの要因が考えられる。ここ5年以上取り組んでいる「自主的学習態度の育成」に向けての継続指導と生徒たちの学力や認知力・理解力に合った宿題等の提供、そして、その提出状況の管理と指導などが大切となる。保護者の家庭での協力・支援を得ることは可能だが、反抗期を迎えるこの年齢期では限界が出てくることを、教員は念頭に対応する必要がある。要は本人の学習に対する意識変革につながる指導の工夫が必要となる。一方、自我の芽生えや思春期、また自身の学力等を客観的に捉え始める年齢となると葛藤等による学習に対する姿勢の変化、親子関係の変化など、自主性が求められることから評価が低くなると考えられる。

教員全体評価は、今年度同様90%以上となった。児童や生徒の自主的な学習態度が学校全体として定着してきていると手応えを感じ始めているとみられる。中学部教員は保護者評価との開きを配慮する必要がある。

#### ② 「学部間の連携」について

保護者の評価は、昨年度とは逆に幼稚部が14%減の55%、小学部が14%減の65%となった。中学部は引き続き増加し7%増加の82%となっている。高等部は昨年度と同値。幼稚部が特に低いことに関しては下記③の結果が関連していると考えられる。

#### ③ 「進路に関する情報提供や相談」や「職業教育の魅力」について

昨年度に続き幼稚部保護者の評価が47～57%と低い。新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により例年行っていた校内進路講演会、愛育会と連携して実施する保護者向け進路見学会の実施ができなかったため、幼稚部保護者への進路に関連する情報提供の場が少なかったことが理由として挙げられる。来年度も同様の状況が続くのであれば、高等部卒後の進路の見通しについて、今までとは違った形で情報提供の方法を検討する必要がある。

### (5) 学校及び校長への意見・提言

評価の分析・考察および協議から、以下の2点について提言とする。

#### ① 自ら学ぶための基礎づくり

- ・ 「立ろう学習ルール」は定着しつつも、具体的な家庭における自主的な学習態度の育成にはまだ課題が見られる。様々な要因は上記(4)①のように考えられるが、保護者の理解と生徒の実態、そして教員の認識に差異がない状態になることが一つの改善目安となる。現在実施の各取り組み(家庭学習の手引き、放課後勉強会、学習記録、努力生徒表彰など)を粘り強く継続しつつも他の効果的な方法を模索していく必要がある。

#### ② 進路の見通しや職業教育の魅力及びこれらに関する情報提供

- ・ コロナ禍により十分に実施できない状況を踏まえ、幼稚部では可能な範囲にて他学部参観等による将来像づくりや愛育会共催の保護者向け進路見学会を、引き続きコロナ禍対応の方法にて実施していく。
- ・ 社会の産業構造変化に対応した設備の充実や職場で問われる言語力の育成に努める。
- ・ 発行する進路だよりにて、幼稚部や小学部段階や重複学級に関する進路情報をより充実させるとともに、個別相談も随時行う。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活かした今後の改善及び引き継ぎ事項(学校経営計画へ反映)

### (東京都立立川学園への引き継ぎ事項)

- (1) 学力(言語力)の向上、授業力の向上、専門性の継承

- ① 「立ろう学習ルール」の遵守と継続および自己評価における「正しい姿勢」「丁寧な言葉」の向上
  - ② 自主学習ノートや学習記録等の活用による自主的学習態度の確立や意欲の喚起（高等部スコラ手帳の活用など社会参加・自立に向けたスケジュール管理の指導等）
  - ③ OJT研究授業の継続実施
  - ④ 自己申告面接時の「専門性チェックリスト（16項目）」の活用
  - ⑤ 乳幼児期における保護者支援の充実（日本語習得の土台作りのための理解・スキル促進）
- (2) 進路に関する情報提供や取り組み
- ① 例年各学部で実施している保護者対象の交流や参観、講座、講演会等をコロナ禍で対応しつつ適切に実施する。
  - ② 今後は幼児・児童や重複学級の保護者向けの内容を充実させるとともに、必要に応じて個別相談も行う。
  - ③ 進路だより、学年だよりの通信やホームページ等を活用して、保護者や関係者の理解・啓発を求める内容及び保護者や関係者が求める内容に配慮した情報提供を行う。

**6 「学校がよくなった」と考える協議委員の人数** (外部協議委員人数 8人)

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	3					2

**7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果**

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

**8 その他**

(1) 学校評価について

- ① 昨年度（令和2年度）にアンケートの大幅見直し（より正確な評価を得るため各設問に関連情報掲載および類似設問の統合）を行い、今年度はFormsによる集計を実施した。
- ② ①後半部分により回収率が下がったため、次年度は改善方策を立てる。
- ③ 数値分析は、4段階評価（判断ができない場合は「5」を選ぶ形）の上位2段階の割合を%表示し、60%未満のものを課題対象とした。
- ④ 各アンケート対象の評価差異を算出し、特に差異が20%以上のものについても分析。
- ⑤ 保護者アンケートの結果を保護者へ配布し、課題について理解や共有を図った。
- ⑥ 教職員にはすべての分析結果を配布し、課題共有を図った。

(2) 外部委員の授業見学等について

- ① コロナ禍による紙面開催およびオンライン開催により外部委員による見学は実施しなかった。学校だよりや立川学園通信「やえ」、西部学校経営支援センターだより「西」等の閲覧によりそれに代わることとした。